

広島市の下痢症患者由来サルモネラの血清型別(2014 年)

生 物 科 学 部

は じ め に

広島市内で発生した下痢症の状況を把握するため、当所では分離された菌株について疫学的な解析を続けている。

2014 年に分離されたサルモネラ菌株(チフス菌を除く)の血清型別及び薬剤感受性試験の結果について、その概要を報告する。

方 法

1 材料

2014 年に市内医療機関で分離されたサルモネラ 15 株を供試した。

2 血清型別

市販のサルモネラ診断用免疫血清(デンカ生研)を用い、常法に従い血清型別を行った。

3 薬剤感受性試験

薬剤感受性試験は Sensi-Disc(BD)を用いた一濃度ディスク法で測定し、ABPC, SM, CP, TC, NA, KM の 6 薬剤について CLSI 法により実施した。

結 果

1 サルモネラの分離状況

過去 5 年間の 0 群分離株数を表 1 に示した。各年とも同様の分離株数であった。0 群別では、04 群, 07 群, 08 群, 09 群が分離されたが、09 群は過去 3 年間は減少し、2014 年は分離がなかった。

2 血清型別検出状況

血清型別検出状況を表 2 に示した。分離された 15 株は 8 種類の血清型であった。内訳は *S. Typhimurium* が 5 株(33.3%)と最も多く、次いで *S. Thompson* が 3 株(20%), *S. Saintpaul* が 2 株(13.3%)という結果となった。

3 薬剤耐性

薬剤耐性パターンを表 3 に示した。SM, KM, TC の 3 剤耐性が 1 株, SM, TC の 2 剤耐性がそれぞれ 6 株認められた。3 剤耐性株は *S. Infantis*, 2 剤耐性株は *S. Stanley*, *S. Typhimurium* であった。

謝 辞

この調査にご協力いただきました医療機関及び保健所の関係各位に対し、深謝いたします。

表 1 年別サルモネラ分離状況

0 群	年別分離菌株数				
	2010	2011	2012	2013	2014
04	6	5	4	3	8
06.8	0	0	0	0	1
07	3	7	4	9	5
08	1	4	3	4	1
09	7	8	1	2	0
016	1	0	0	0	0
0 UT	0	0	0	1	0
計	18	24	12	19	15

表 2 血清型別検出状況

血清型	分離菌株数
04 <i>S. Stanley</i>	1
<i>S. Saintpaul</i>	2
<i>S. Typhimurium</i>	5
06.8 <i>S. Newport</i>	1
07 <i>S. Thompson</i>	3
<i>S. Infantis</i>	1
<i>S. Mikawasima</i>	1
08 <i>S. Pakistan</i>	1
計	15

表 3 薬剤耐性パターン

耐性パターン	SM/KM/TC	SM/TC	感受性	計
<i>S. Infantis</i>	1			1
<i>S. Stanley</i>		1		1
<i>S. Typhimurium</i>		5		5
その他			8	8
計	1	6	8	15